

招 請 状

(学費斗争の細頸的文書) 討論決定のため

学費問題対策協議会事務局

学費問題を主体的に受けとめ、先進的に闘っている全ての学友諸君//
 六月斗争の総括をふまえ、最も果敢に闘った部分で学対協が結成されてから二ヶ月が経った。新しい斗争の局面を迎えるに当って、学対協が一回総会を開きたいと思
 います。多人数では一部二部の全ての学友の参加を心から呼びかけます。

学対協は、学値上げを阻止するという目的以外には、何の目的も持っていない。
 学対協は、全学友の利益、斗争の大衆的な高揚と大衆的統一戦線の形成、学費斗争
 の勝利を、あらゆるものの第一の基準として闘う。
 学対協は常に全体的な見地から、あらゆる理論的問題を解決して行く。
 学対協は当面、一部二部全学共同協議——大衆的な単一指導部——を、大衆的な斗
 争委員を要求する。そのために、クラス、サークル、寮での斗争委員会を早急に組
 成するよう呼びかける。

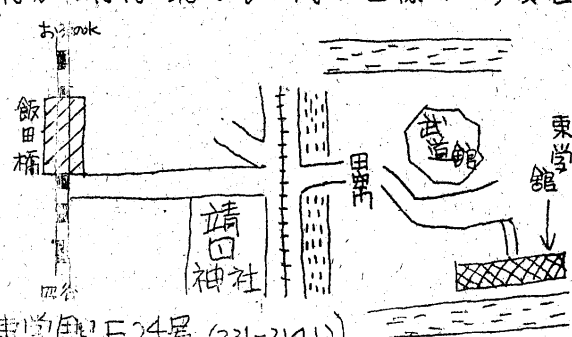
日本資本主義は朝鮮動乱の特需と設備革新、合理化の波を通じて、帝国主義として
 復活し、確立した。金融資本の指導による企業の集中合併、徹底的な合理化が「財閥」
 という形で復活しつつある。資本が海外へ進出し、侵略と抑圧の時代——帝国主義段
 階へと、日本資本主義は発展して来た。

帝国主義の時代の大学を求めるとして、現在の大学支配の攻撃が進行している。
 62年の中教審答申に始まる、理念としての新制大学をも破壊する攻撃が、「大管法」
 「旧七帝大校長の認証官制度」「学厚審答申による寮自治破壊」「教員免許法改悪」
 「大学設置基準改悪」「期待される人間像」等々として現実化している。政府ブルジョ
 アジーによる帝国主義的の大学に、現在の大学を変えて行こうとする方向を基本軸とし
 て、現在の反动文教政策がある。

明治の理學会は、自らを政府の支配下に収めることによって、新たな「帝国主義的
 大学のチャンピオン」に造りかえようとしている。それは佐々木前総長を、大学設置
 基準審議会会長に祭り上げ、更に理學会自身が「設置基準を学内で施行するためには、
 学費値上げが必要である」と明言している。学値上げはマスプロ教育をもたらすの
 みならず、大学教育そのものまで変えて行くのである。そのための資金を学値上げ
 として獲得するのである。

学値上げは現在の反動的文教政策と密接な関係があり、経済主義、政治主義、改
 良主義、条件斗争を斗争の過程で粉砕して行かねばならない。斗争の目標は「学費値
 上げを阻止する」ことである。

- ・25日(日) 午後1時より
- ・東京学生会館内雄飛寮



9.21

学費問題対策協議会事務局 (東学館E24号 (231-2141))